

氏名：松本 卓也

実施国：グアテマラ

調査研究

(1) 計画通りに実施されましたか？運営面・経理面での変更点はありましたか？

当初の予定では現地にて栽培試験を実施する予定であったが、現地協力機関との調整が難航したことなどから実施できなかった。経理面に関しては、海外旅費分を消耗品費（理化学分析費）に変更した。

(2) 実施の結果（良かった点、反省点を含めて）

グアテマラ国西部高原地域の農耕地土壌の理化学特性を明らかにした。土壌特性は、主として砂壤土で黒色を呈し、酸性で塩基類の溶脱が進んでおり、リン酸吸収係数は高いものの、土壌生産性は比較的高い土壌であった。土壌診断の結果から、リン酸不足と塩基バランスの不均衡を明らかにし、具体的な改善策としてリン酸系及び苦土石灰系肥料の施用が収量増加及び持続的かつ安定的な生産に効果的である可能性を示すことができた。当初予定されていた現地での栽培試験は実施できなかったが、今後ミルパシステムや農業の持続性を考える上で必要不可欠な基礎データを得ることができ、現地農業現場への具体的な改善策を提案することができた。



屋根の上で天日干しされるトウモロコシ。
収穫後は十分に乾燥させる。
この時期には至るところでこのような風景が見られる。



村の共同洗濯所

(3) 異国の参加者同士または本人が相互理解を深めたと確信できた場面は？
または実施事業に対する一般の反響は？「協力活動」「調査研究」「海外での研修」

圃場調査の際に現地の農業普及員や農家の方々に研究の目的や背景を説明したところ、「それはとても大事なことだ、がんばれ、いつでも私たちは協力する」との言葉を頂き、実際に調査にも協力してくれたこと。隊員時代にお世話になった現地農業試験場に結果を報告することができたこと。調査研究の実施を通して、カウンターパートと密に連絡を取ることができ、より信頼関係や協力関係が強化されたこと。日本国内では、学会発表や所属大学での報告会等を通して研究成果を発表した。グアテマラという国自体がそこまで知られていなかったが、そこでの農業や土壌について紹介することでグアテマラを知ってもらい、国際協力について考えるきっかけを提供することができたと考えている